

# 広島市消費生活センターだより

## 令和7年に流行った 来年も要注意な消費者トラブル



消費者庁 消費者ホットライン 188  
イメージキャラクター イヤヤン

### お米の価格高騰に便乗した 偽の通販サイト

#### 注意ポイント!

- ✓ 価格が不自然に安い
- ✓ 事業者の問い合わせ先電話番号が通じない



### 警察官などをかたる 不審な電話

#### 注意ポイント!

- ✓ 警察官が SNS で連絡をすることはありえない
- ✓ 国際電話は着信拒否!



**悪質商法の手口は、日々変化しています。  
流行りの情報を入手するなどして、消費者トラブルを未然に防ぎましょう!**

### 年末総点検

### だまされやすさチェック

**チェックが多い方は要注意!**

- |   |  |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 拝まれるようにお願いされると弱い    | <input checked="" type="checkbox"/> 専門家や肩書がすごい人の意見には従ってしまう     |
| <input checked="" type="checkbox"/> おだてに乗りやすい           | <input checked="" type="checkbox"/> 無料だったり返金保証があるならいろいろ試してみたい  |
| <input checked="" type="checkbox"/> 自信たっぷりに言われると納得してしまう | <input checked="" type="checkbox"/> 好きな有名人が勧める商品は買いたくなってしまう    |
| <input checked="" type="checkbox"/> 見かけの良い人だとなつい信じてしまう  | <input checked="" type="checkbox"/> どんな相手からの電話でも最後まで聞く         |
| <input checked="" type="checkbox"/> よいと思った募金にはすぐ応じている   | <input checked="" type="checkbox"/> 試着や試飲をしたために、つい買ってしまったことがある |

**困ったときは、一人で悩まず広島市消費生活センターにご相談ください。**

**広島市消費生活センター**  
**☎082-225-3300**

開館時間: 10時~18時

休館日: 火曜日、日曜日、祝日・休日、12月29日~1月3日

〒730-0011 広島市中区基町6番27号 アクア広島センター街8階

※休館日には、消費者ホットライン(☎188(いやや))、  
もしくは広島県消費生活センターをご利用ください。

広島県消費生活センター

☎082-223-6111 (月~金曜日 9時~17時(年末年始と祝日・休日は休館))

相談無料  
秘密厳守  
です



広島市HPからは電子メールによる消費生活相談も受け付けています。



## 見守り 新鮮情報

### 事例1

亡父の**遺品整理**のため  
ネットで探した  
**回収事業者**に

電話で依頼した。当初、**20万円**ぐらい  
かかると聞いていたが、**作業後**に  
料金は**30万円**と言われた。

**見積書**はもらっていない。

(60歳代)

### 事例2

亡父宅の**不用品処分**を事業者  
に依頼した。**大切な書類等**は  
**残しておく約束**が、アルバムや  
回線のつながっている電話機  
まで**処分された**。事業者  
に苦情を申し出たが、ゴミ処理場  
に運搬済みで**取り戻せない**  
と言われた。

(60歳代)

# 遺品整理を 頼むときは、 事業者選びは 慎重に

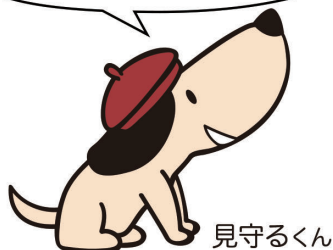


©Kurosaki Gen

- 遺品整理サービスに関する作業内容や料金は様々です。必ず複数の事業者から見積もりを取り、契約内容や料金を比較しましょう。
- 契約をする際には、作業日、具体的な作業内容、料金、支払方法、解約料などについて確認しましょう。作業時には思いがけない追加料金を請求されることもあるので、事前に確認するようにしましょう。
- 遺品や住まいの不用品を廃棄物として収集・運搬する事業者は、市町村からの委託業者であるか、市町村長から「一般廃棄物処理業の許可」を受けている必要があります。無許可事業者による不用品の処分は法律違反となり、不法投棄などに繋がりがかねません。お住まいの市町村の窓口で照会するなどして事業者選びは慎重にしましょう。

## ひとこと助言

複数社の見積もりを



見守るくん

- また、遺品を買い取る事業者は「古物商の許可」が必要ですので、買い取ってもらう際には「古物商許可証」や「行商従業者証」を確認しましょう。
- 大切な遺品を誤って処分されてしまうケースもあります。残しておく遺品と処分する遺品を明確に分け、作業時はできるだけ立ち会うようにしましょう。
- 困ったときは、お早めにお住まいの自治体の**消費生活センター**等にご相談ください(消費者ホットライン188)。